

三宿病院病理科における臨床研究と学会または学会誌への報告のご案内

病理科では、三宿病院倫理委員会の承認を得て、承認後から平成 29 年 3 月 31 日までを目的に、胃腸間質腫瘍の浸潤や転移の臨床病理学的特徴を検討するための後方視的調査研究を実施します。

胃腸管間質腫瘍（GIST）は、消化管に発生する非上皮性腫瘍のうち最も頻度の高いものです。そのリスク分類と治療方針は近年確立されてきてはいるものの、時に予想を越える側方浸潤や転移をみることがあります。こうした浸潤・転移は治療や診断において重要な注意点と考えられますが、これまで十分な病理組織学的検討はなされていません。このため、当院における GIST 症例を用いて、浸潤・転移に関して臨床病理学的に検討し、外科的切除の際の注意喚起や、病理診断の精度向上に寄与させる所存です。

今回の研究では過去に当院での手術、剖検等で得られた GIST 症例の病理組織標本のみを用い、新たな人体試料の採取は行いません。個人が直接特定されうる情報は収集いたしません。

当臨床研究は、平成 26 年の文部科学省と厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」で定めるところの、「自らの研究機関において保有している既存試料・情報を用いて研究を実施しようとする場合」の「人体から取得された試料を用いる研究」に相当し、三宿病院の倫理委員会でも承認されています。同指針では、文書や口頭によるインフォームド・コンセントの手続きが困難で、研究対象者等の同意を受けることが困難な場合、「①当該研究の実施について人体から取得された試料の利用目的を含む情報を研究対象者等に通知し、又は公開していること。②研究が実施されることについて、研究対象者等が拒否できる機会を保障すること」を満たす必要があるとされています。

今回、我々は当院の倫理委員会の規定に基づいて、三宿病院のホームページにて公開することといたしました。尚、当件についてのお問い合わせやご相談等がございましたら、三宿病院事務部庶務課までご連絡ください。今後もさらなる研究を積み重ね、皆様に信頼される医療機関となるべく努力して参りますので、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

病理科 猛尾 弘照